

地域特産物マイスター通信

第17号

地域特産物マイスターの皆様への期待と注文



地域特産物マイスター協議会会長
山田 琢三

盛夏の候 会員の皆様には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震で被災された方々には、衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、地域特産物マイスター制度は、平成12年10月に発足しましたので、本年は発足後11年目にあたります。この間、認定登録された仲間は、206名に達しますが、高齢等のため活動を停止された方も出てきており現在、196名が全国44都道府県で活動中です。全都道府県にマイスターをという我々の目標もあと3県（青森、富山、山口）を残すまでとなりほぼ全国ネットワークが構築されましたので、昨年度発行されました名鑑等を活用して会員間の積極的な情報交換により地域特産物の産地育成への貢献をお願いする次第です。

また、活動をされる際には、自分は地域特産物マイスターであるという自己宣伝を是非お願いしたいと思います。会員の活動が新聞記事になっている場合がありますが、マイスターと書かれていないことがよくあります。マイスターの活動を知らせる絶好の機会と思いますのでよろしくお願いいたします。

協議会発足10年を経過して、毎年1回開催しております地域特産物マイスターの集いや協議会総会の参加者も特定化が顕著になり、昨年は、内容がマンネリ化しているとの指摘を会員から受けました。これまで会員の作物分野や業態、年齢などそれぞれ違いますから、最大公約数的な発想で企画してきたところですが、会員の皆様からの能動的な企画参加をお願いします。新しい発想をお寄せ下さるようお願いいたします。多くの会員が集いや総会へ参加されるよう期待しています。

平成22年度地域特産物マイスターが認定されました。

平成22年度の地域特産物マイスターとして20名（別添）が認定されました。平成12年度の制度発足以来認定者総数は206名になりましたが、昨年度行った活動状況についてのアンケート調査等の結果、現役活動中の認定者は196名です。

昨年度編纂した地域特産物マイスター名鑑や協会ホームページに掲載してご紹介しております。地域特産物の重要性が高くなる中、マイスターの益々の活躍が期待されております。

なお、今回、宮城県から仙台市の萱場哲男さんが「仙台伝統野菜」で認定されましたので、マイスターのいない空白県は青森、富山及び山口の3県に減りました。全国44都道府県のネットワークを活発な情報交換にお役立て下さい。

第10回地域特産物マイスターの集いが開催されました。

平成23年2月16日午後、第10回地域特産物マイスターの集いが三会堂ビル石垣記念ホールで関係者約70名の参加を得て開催されました。

主催者、来賓の挨拶の後、平成22年度認定者のうち欠席者を除く17名に小高理事長から認定証が手渡されました。

続いて、特別講演として独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センターの佐藤マーケティング研究チーム長から、自身の研究成果である食料消費の動向と農業・食品産業の展開方向を基にして「これからの地域特産物の販売戦略について」講演がありました。

講演内容の一部を紹介しますと、食料消費の品目別動向を世帯員1人当たり年間支出金額は近年、パン、麺類、菓子類が顕著に増加しこれに対して、生鮮果実、牛乳、緑茶、ビールの減少が顕著。中長期的には、加工された食料の購入が増加している。

また、味の好みの多様化について、イチゴの試食調査の例を示したが、甘みが強く酸味は弱い品種を試食してもらった結果は、子供と女性は評価は高いが、男性はそれほど高くないという。従来、果実の商品開発においては、糖度のみを重視したが、高糖度プラス酸味の重要が伺え、消費者に好みも多様化している。

消費者のライフスタイルの多様化に伴い、食スタイルの多様化も進展しており、同じ年代や世帯構成であっても食スタイルは一定でないのが特徴。従って、これら食料消費の変化に応じた農業・食品産業の展開が望まれる。

なお、休憩後、「地域特産物マイスターの活動状況」をテーマにした討論会が地域特産物マイスター協議会の山田会長を座長に、中森・上田副会長、農林水産省の高橋課長補佐、中央農業総合研究センターの佐々木所長、佐藤チーム長（特別講演の講師）を助言者に行われました。討論会では、皮切りに新規認定されたマイスターから自身の活動状況を紹介することから行われました。



座長の山田会長（左から3人目）と質問に回答する助言者

討論会における主な意見は、次のとおりです。（順不同）

- 鹿等による鳥獣害が甚大。防止対策はどのようにすべきか。
→保護区、禁猟区等制度があるので、まず、行政と相談してはどうか。
→息子に狩猟免許を取らせて自己防衛。行政に頼ってはだめだ。（以上マイスター）
- 地球温暖化の影響からか柿の天日乾燥がしにくくなった。
- メロンのつる割れ病対策として、従来のカボチャ台からメロン台にメロンを接ぐ共接ぎ技術を開発したが、地域では反発され普及しなかった。新技術をお互いに認める意識改革が必要。
- みょうがの根茎腐敗病（熱湯をかけたように萎れる）に悩んでいる。特産物に行政はもっと力をいれて欲しい。
- 特別講演で、加工品にも「香りを付ける」ことを学んで勉強になった。



討論会風景

- ・特別講演で、消費の縮小・停滞への対応として、輸出も考えるべきとの話があったが輸出への対応方法を教えてほしい。
- ・てん茶用の登録農薬が少なく、また、適応期間も1年と短く使用し難い。適期防除のため、病害虫の発生予察に取り組んでいる。
- ・抹茶を普段に生活に取り込んで貰おうと、消費者に安全・安心志向に対応すべく努力している。
- ・手作り農産加工品の数は多いと思うが、消費者に知られていない。どのようにPRすればよいか。
- ・特別講演で、オーダーメイド製品の話があったが、畳表にも応用できるか興味をもった。
- ・みかんを使ったメニュー提案したい。栄養バランスが良く、殆どの要素の必要量をクリアしている。
- ・いぐさは後継者不足等のため生産規模の減少。これに伴い農業機械メーカーも撤退、登録農薬も失効するなど厳しい環境となっている。行政の応援をお願いしたい。
- ・地元産原料を使用し、ここだけしかない加工品の生産にこだわりたい。
- ・離島での雇用創出に向け熱帯果樹の加工品等25品目に取り組んでいる。

平成22年度協議会総会の概要

マイスターの集い終了後、協議会総会が開催されました。

まず始めに、山田会長から挨拶がありました。その内容を要約しますと、本年度20名の新規会員をお迎えでき出来大変おめでたい、これで活動中の会員は全国44都道府県で196名と大勢力となり全国ネットワークもほぼ完成したことから、情報の交流等を通じ、地域特産物の産地育成につなげて頂きたい。地域農業の振興にとってマイスターの果たす役割は益々大きくなっている。との激励がありました。

その後、議長に山田会長を選任して、議事に入り、第1号議案「平成22年度収支決算案」について事務局からの説明、高橋監事の監査報告の後、採決がおこなわれ、全会一致で原案のとおり可決しました。

次に、第2号議案「平成23年度収支予算案」についても、全会一致で原案のとおり可決されました。

また、報告事項として「年会費徴収に関する意向調査結果について」（注）事務局から報告がありました。会長からは、今回の調査結果では年会費の徴収については異論が多かったことから、時期尚早との結論となったが、引き続き検討すべき課題であるとの認識が示され了承されました。

その他意見としては、年1回の集い・総会に出席する会員が少ない。もう少し多くの会員が出席すべき。集いのプログラムがマンネリ化している。開催地を時には東京以外にしてはどうか。年会費の徴収を全員からというのは意見集約しにくいので、まず有志が「友の会会員」になって会費を協議会に寄附するというような知恵を出してはどうか。等の意見が出されました。

注：調査票配付186名中、回答者71名、うち会費徴収に参加と回答した者40名

平成22年度 地域特産物の持つ機能性等に関する研究会 (特産農産物セミナー) の開催

平成23年1月17日午後、特産農作物セミナーが三会堂ビル9階石垣記念ホールで開催されました。今回は要望の多かった生薬・薬用作物と新品種の開発が進むゴマを取り上げました。

当日は、地域特産物マイスター、農業改良普及員など約100名の参加があり関心の高さが伺えました。

今回の特徴は、冒頭、総論として地域特産物の生産と流通を巡る現状と課題として、そば、なたね、薬用作物、昼表・いぐさ、ゴマ、葉たばこについて生産の現状、課題並びに国の施策内容の説明が農林水産省春日特産農産物対策室長からあり、そのなかでは、そば、なたねを農業者戸別所得補償制度の対象に加えた経緯や薬用作物について国内での増産のため厚生労働省との連携して生産技術の改良等を進めるとの方針が示されました。

続いて個別作物についての講演に入り、生薬・薬用作物については、製薬業界側からの国内生産に対する考え方について日本漢方生薬製剤協会生薬委員会の浅間宏志委員長から、現場での生薬栽培の現状と課題については、高知県で三島サイコ等薬用作物を農事組合法人ヒューマンライフ土佐を組織して契約栽培に取り組んでいる地域特産物マイスターの片岡継雄さんから講演がありました。

ゴマについては、新たに育成された機能性成分としてのリグナン類の多い3品種「ごまぞう（茶色）」、「まるえもん（黒色）」、「まるひめ（白色）」についてそれぞれの機能性や栽培特性について農研機構作物研究所の大淵直樹主任研究員から、ゴマの契約栽培の現状と課題については鹿児島県で農家と契約栽培をしながら、風味、味を重視した昔ながら搾油方法である石臼式玉締め法の復活させ、販売している地域特産物マイスターであり有限会社鹿北製油代表取締役社長の和田久輝さんからそれぞれ講演がありました。

講演後には、平岩進元農林水産省北陸農業試験場長を座長に講演者5名と参加者との間で総括討議が行われました。



講演中の片岡継雄さん



講演中の和田久輝さん

本年度の行事予定

地域特産物マイスター関係の行事予定は今のところ以下のとおりです。

① 活動状況についてのアンケート調査の実施

協会では、マイスターの皆様の活動状況等を、ホームページで紹介しておりますが、この情報を最新のものとするためのアンケート調査を実施します。必ずご回答下さい。

② 新規地域特産物マイスターの募集・認定

平成23年度の新規マイスターを9月末日まで推薦募集中です。その後、認定審査を経て、平成24年2月にマイスターの集いの中で認定証交付式を行う予定です。

③ 地域特産物の持つ機能性等に関する研究会（特産農作物セミナー）の開催

平成24年1月16日（月）午後、例年と同じ東京都港区赤坂1-9-13の三會堂ビル9階の石垣記念ホールで開催します。作物はなたねと茶の予定です。

平成22年度地域特産物マイスター認定者

平成23年2月16日
(財) 日本特産農産物協会

| | 氏名(年齢) | 住所 | 分野 | 推薦者 |
|----|--------------------------|---------|-------------------|-----------------------|
| 1 | ちば ゆういち 千葉 雄一(71) | 岩手県大船渡市 | 小枝柿 | 大船渡市農業協同組合長 |
| 2 | かやば てつお 萱場 哲男(63) | 宮城県仙台市 | 仙台伝統野菜(仙台白菜等) | 県仙台農業改良普及センター所長 |
| 3 | くろだ まさひこ 黒田 正彦(65) | 山形県米沢市 | うこぎ(ヒメウコギ) | 県置賜総合支庁産業経済部長 |
| 4 | やまぐち しょうじゅう 山口 正重(48) | 茨城県鉾田市 | 特別栽培アンデスメロン | 鉾田市長 |
| 5 | こやま りんえ 小山 林衛(56) | 群馬県東吾妻町 | こんにゃく | 県吾妻農業事務所長 |
| 6 | はらだ かづこ 原田 カヅ子(67) | 群馬県高崎市 | 農産加工(みょうがしそ漬等) | 県西部農業事務所長 |
| 7 | すずき たかひろ 鈴木 隆博(49) | 静岡県浜松市 | ハーブ | ジャパンハーブソサエテイ理事長 |
| 8 | みなみ まさひろ 南 正弘(63) | 石川県金沢市 | 青首かぶら | 県県央農林総合事務所長 |
| 9 | いしかわ のぶゆき 石川 信行(66) | 愛知県西尾市 | てん茶 | 西尾市長 |
| 10 | こばやし しんや 小林 晋弥(41) | 愛知県西尾市 | てん茶 | 西尾市長 |
| 11 | たかす まさのり 高須 正徳(48) | 愛知県西尾市 | てん茶 | 西尾市長 |
| 12 | なかだ ようこ 仲田 陽子(34) | 三重県松阪市 | 農産加工(イチゴジャム) | 松阪市長 |
| 13 | くりさか ただし 栗坂 正(65) | 岡山県倉敷市 | いぐさ | 県備中県民局農林水産事業部長 |
| 14 | よしだ てつし 吉田 哲士(59) | 香川県三豊市 | 越冬完熟木成り袋かけ みかん | 県西讃農業改良普及センター所長 |
| 15 | むらせ かつよし 村瀬 勝吉(66) | 長崎県西海市 | 西海枝折れなす | 西海市長 |
| 16 | さかい くにと 酒井 國人(56) | 熊本県八代市 | いぐさ、畳表 | 八代地域農業協同組合長 |
| 17 | しもなが たつや 下永 辰也(50) | 熊本県八代市 | いぐさ、畳表 | 八代地域農業協同組合長 |
| 18 | ひろた かずひろ 廣田 和博(56) | 熊本県氷川町 | いぐさ、畳表 | 八代地域農業協同組合長 |
| 19 | もりき かずこ 森木カズ子(74) | 鹿児島県始良市 | 農産加工(ニンジン加工品) | 県始良・伊佐地域振興局 農政普及課長 |
| 20 | ふくどめ けいこ 福留ケイ子(67) | 鹿児島県伊仙町 | 農産加工(熱帯果樹ジュース等) | 伊仙町長 |